

CONFIDENTIAL

※令和7年9月29日
までは秘文書



祝 北九州市/下関市の関門が
持続可能な観光地として、世界TOP100に選出

令和7年9月

共創 門司港共創 M
MOJIKO CO-CREATION
PROJECT TEAM CONSORTIUM

一般社団法人
海峡都市関門DMO

北九州市 / 下関市の関門が 持続可能な観光地として、世界 TOP100 に選出されました

北九州市 / 下関市の関門が世界の持続可能な観光地を表彰する国際認証機関グリーン・デスティネーションズ（以下、GD）により 2025 年のカテゴリ「Destination Management」において、世界 TOP100 に選出されました。



関門エリアが、持続可能な観光地を認証する国際的団体「グリーン・デスティネーションズ」の表彰制度『世界の持続可能な観光地 トップ 100 選』を受賞しました。
関門エリアの持続可能な観光に対する取り組みが高く評価されました。

「Green Destinations Top 100 ストーリーズ」では、毎年持続可能な観光に取り組む地域を 100 地域選出しています。1 次審査をクリアした地域は、2 次審査において「持続可能な観光の課題に対する解決策」といった観点でグッド・プラクティス・ストーリー（優良事例）を作成し、提出します。有識者による評価を経て 100 地域が選出され、中でも特に上位にノミネートされた地域が毎年授賞式に招待されます。



北九州市 / 下関市にまたがる関門海峡エリアの地域連携課題の解決策として「インフラツーリズム」に可能性を見出し、インフラ事業者を観光の輪に巻き込み“一つの観光圏”としてエリアマネジメントにも貢献していることが世界的に評価されました。

申請団体

○認定エリア：海峡都市関門

○申請団体：一般社団法人 海峡都市関門 DMO/ 門司港共創 PT 共同事業体

申請団体変遷

2023 年 3 月 : 一般社団法人 海峡都市関門 DMO 観光地地域づくり法人制度
登録 DMO 法人として認定

2023 年 4 月 : 門司港レトロ観光 9 施設指定管理者 門司港共創 PT 共同事業体 設立

門司港レトロ観光 9 施設の指定管理者である門司港共創 PT 共同事業体と海峡都市関門 DMO がエリアのリーディングカンパニーとして明確なビジョンと長期的な観光地経営戦略を持ち、市場の動向を的確に予測し変化に柔軟に対応し、関門エリアを持続可能な観光モデル推進

～持続可能な観光地づくり～

2022 年 8 月 : 観光庁エリアマネジメント体制構築支援事業採択

2022 年 10 月 : GSTC サステナブルツーリズム研修受講

2023 年 10 月 : 関門海峡観光振興ビジョン策定

2023 年 11 月 : 観光庁 JSTS-D ロゴマーク使用承諾



2024 年 4 月 : 関門海峡エリアの持続可能な観光勉強会（第 1 回）開催

2024 年 6 月 : 関門海峡エリアの持続可能な観光勉強会（第 2 回）開催

2024 年 7 月 : 関門海峡エリアの持続可能な観光勉強会（第 3 回）開催

2025 年 4 月 : 2025 Green Destinations TOP100 サステナビリティ チェック通過

2025 年 6 月 : 2025 Green Destinations TOP100 Stories 申請

2025 年 9 月 : 2025 年 Green Destinations TOP100 Stories 認定



申請団体について

一般社団法人

海峡都市関門 DMO について



一般社団法人

海峡都市関門DMO

「人々が行き交い物語が生まれる海峡都市、関門海峡を越えて2つの文化でおもてなし」

右へと左へと行き交う船。海峡都市 関門の日常風景です。福岡県北九州市と山口県下関市に挟まれた関門海峡エリアは、本州最西端と九州北端の間の狭い海峡を中心とした観光地です。2つのまちは船でわずか5分の距離。対岸の風景がすぐそこにあります。本州と九州を繋ぐまちでもあり、空路・海路・陸路の交通の要所でもある関門海峡は、昔から多くの人々が行き交い、さまざまな物語が生まれてきました。関門海峡の歴史と豊かな地域資源を最大限に生かし、地域内外の関係者と連携した事業を展開しながら、人と文化が行き交う海峡都市の実現を目指します。

【団体概要】

- 法人名：一般社団法人 海峡都市関門 DMO(地域連携 DMO)
- 登記：山口県下関市一の宮学園町2-1(東亜大学内)
- 所在地：福岡県北九州市小倉北区大手町11-3(朝日広告社内)
- 代表理事：巖洞 秀樹
- 事業内容：地域活性化に関する事業、旅行業法に基づく旅行業
- 設立：2020年10月2日
- ホームページ：<https://www.kanmon-dmo.org/>

門司港共創プロジェクトチーム 共同事業体について



門司港レトロから関門へ、日本へ、世界へ。「持続可能な観光地経営の視点」で地元になさまざまな恩恵を還元できる海峡観光リゾートを目指します。門司港レトロ観光9施設の運営を通し、「観光地域づくり」の中核として地域の多様な関係者を巻き込みつつ科学的かつ実践的アプローチを取り入れた新たな体制づくりを構築。

【団体概要】

- 事業体名称：門司港共創プロジェクトチーム共同事業体
- 構成企業：株式会社朝日広告社、岡崎建工株式会社、株式会社イースト
- 本社所在地：北九州市門司区東港町6-72
- 代表：二宮 佳範
- 事業内容：門司港レトロ観光9施設 指定管理者
- 設立：2023年4月1日
- ホームページ：<https://mojiko-retoro9.jp/>

GD「グリーン・デスティネーションズ」とは

オランダを拠点とする国際非営利団体で、グローバル・サスティナブル・ツーリズム協議会（GSTC）※1 が認定した組織のひとつです。世界中の持続可能な観光地域づくりにおける取り組みを評価、マネジメントすることを目的としています。

※1：グローバル・サスティナブル・ツーリズム協議会（GSTC：Global Sustainable Tourism Council）とは、世界の持続可能な観光の推進と国際基準（ガイドライン）を策定することを目的に、2008年に発足した国際非営利団体です。

GSTC が管理する国際基準は世界で唯一、国連世界観光機関（UNWTO）の指示の下、開発された基準で国際連合環境計画（UNEP）などの国連機関、民間企業、NGO など世界 150 以上の団体と連携し、策定した基準の適切性がモニタリングされています。

世界の持続可能な観光地TOP100選 (Green Destinations TOP100)とは



GD が世界中の持続可能な観光の国際基準を取り入れ、より良い地域づくりに努力している地域を 2014 年から毎年選出し、広く発信しているアワードです。

エントリーには、持続可能な観光に関わる 100 項目にわたる国際基準のうち、(1)「景観保全や文化財の保護、エネルギー消費量の削減など」の特に重要な 15 項目の指標（2 年目は 30 項目）をクリアしていること、(2) 地域の優れた取組事例「グッド・プラクティス・ストーリー」の存在が必要になります。

【参考】

※毎年、世界の 100 の観光地が選出。過去 3 年間で日本において選出された地域は次のとおりです。

Top 100 Destinations Stories 2024

宮津市（京都府）・手向（山形県）・遠野市（岩手県）・釜石市（岩手県）・千曲市（長野県）

Top 100 Destinations Stories 2023

大洲市（愛媛県）・小国町（熊本県）・小布施町（長野県）・釜石市（岩手県）・弟子屈町（北海道）・箱根町（神奈川県）・丸亀市（香川県）・宮津市（京都府）・三好市（徳島県）・与論島（鹿児島県）

Top 100 Destinations Stories 2022

阿蘇市（熊本県）・大洲市（愛媛県）・小国町（熊本県）・釜石市（岩手県）・小豆島町（香川県）・那須塩原市（栃木県）・箱根町（神奈川県）・東松島市（宮城県）・南知多町（愛知県）

グリーンディステーションズTOP100 認定効果

1. 認定の意義

- ・世界的に評価される「持続可能な観光地」としての証明
- ・SDGs・環境配慮を重視する旅行者・事業者からの信頼獲得
- ・国際的ネットワークに参加し、最新の事例や知見を共有可能

2. エリアにとっての効果

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| (1) ブランド力向上 | (3) 地域内への効果 |
| ・世界に通用する「グリーンブランド」の確立 | ・住民・事業者の誇りとモチベーション向上 |
| ・国内外の旅行者や事業者への強力なPR材料 | ・自治体施策や教育活動への活用 |
| (2) 観光マーケティング | (4) 政策面での活用 |
| ・インバウンド誘致の差別化ポイントに | ・認定レポートを通じて課題を可視化 |
| ・メディア露出や旅行会社採択の増加 | ・国や県の補助金・助成金申請に有利 |
| | ・他自治体との連携強化 |

3. 国内外の事例

【日本】

- ・北海道ニセコ町：国際スキーリゾートとして「環境先進地」のブランドを確立
- ・長野県白馬村：観光事業者のエコ施策導入が進展
- ・奄美市：世界自然遺産とあわせて国際的信頼性向上

【海外】

- ・スロベニア：国全体でブランド化、EU 補助金獲得に活用
- ・オランダ・ヘグ：国際会議都市として企業誘致に活用
- ・バリ島トゥバン：海洋環境活動が観光と国際協力を拡大

4. まとめ

- ・地域の観光戦略強化 × 住民意識向上 × 国際的信頼獲得
- ・認定は「観光振興」と「地域づくり」の両輪を推進する強力なツール

GREEN DESTINATIONS TOP100選出今後の展望(計画)案

目的

- ・住民の持続可能な観光に対する満足度向上を最優先。
- ・観光客の満足度と周遊性を高め、滞在型観光への転換を推進。
- ・「地域の足」(関門橋・トンネル・連絡船など)を観光資源化し、利用促進を通じて交通サービスの安定と住民の利便性向上につなげる。

背景

- ・下関市と北九州市は隣接するが、観光が分断されており、訪日外国人の周遊率は20%に留まる。(2024年度における訪日外国人の周遊状況 NAVITIME for JapanTravelデータより)
- ・2地域を周遊した観光客は単独訪問に比べて消費額が約1.4倍。周遊性の欠如は大きな機会損失。
- ・観光利用を通じた地域交通の維持と、住民・観光客双方の満足度向上が必要。
- ・韓国からの訪日客を関門海峡兩岸に誘導し、分断を越えた一体的な観光モデルを構築する。

NEXT STEP(事業計画イメージ)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 調査業務 | 4. 周遊促進基盤整備 |
| ・インフラツーリズム推進協議会(仮)設置 | ・データベース収集強化 |
| ・周遊促進・コンテンツ利用調査設計 | ・かんもんPAY加盟店拡大・販促強化 |
| 2. コンテンツ開発に向けた調査 | 5. 環境保全・循環型取組 |
| ・勉強会・セミナー開催(GSTC基準活用) | ・海峡の清掃・ごみ削減・アップサイクル |
| ・地域事業者・住民への理解醸成 | ・住民・観光客が共に参画する学びと実践 |
| 3. コンテンツ開発 | |
| ・周遊体験プログラムの創出 | |
| ・持続可能な勉強会・協議 | |